

公開シンポジウム

言語の科学とテクノロジーが描く未来社会のビジョン

講演者及び講演題目：

Edward Chang (University of California, San Francisco) "Toward a speech neuroprosthesis"

川原繁人 (慶應義塾大学) 「マイボイス: 言語学と医療の接点の一例として」

佐野大樹 (Google Japan) 「学習データの言語学: 機械学習における言葉の選択」

Steven Bird (Charles Darwin University) "Designing language technologies with indigenous people"

企画・司会： 酒井 弘 (早稲田大学)

協賛：

早稲田大学総合研究機構 ことばの科学研究所、言語情報研究所

早稲田大学重点領域研究機構 学際融合脳科学研究所

早稲田大学理工学術院 英語教育センター

言語系学会連合

シンポジウム趣旨：

いわゆるIT・AI分野を中心に、言語とコミュニケーションに関わる科学技術の発展は現代の社会に大きな変化をもたらした。このような発展が続くことで、未来の社会はどのような姿になるだろうか？そして、言語学者はそこにどのように貢献できるのだろうか？本シンポジウムではこれらの疑問に対して、前半では言語神経科学の観点から、特にALS（筋萎縮性側索硬化症）などの原因で音声発話が困難になる「閉ざされ症候群」の患者支援を目指して脳信号から発話音声を読み取る試みや、患者自身の音声を合成する取り組みについて紹介し、後半では自然言語処理の観点から、危機言語の保全と復興にIT技術を利用する試みや、自動翻訳、人工知能など言語テクノロジーの多言語化を目指す試みの最前線を紹介する。まとめとして、これらの分野の将来像、及び言語研究者に期待される貢献のあり方について議論する。